

## 令和5年度 過年度卒業生対象アンケート集計結果

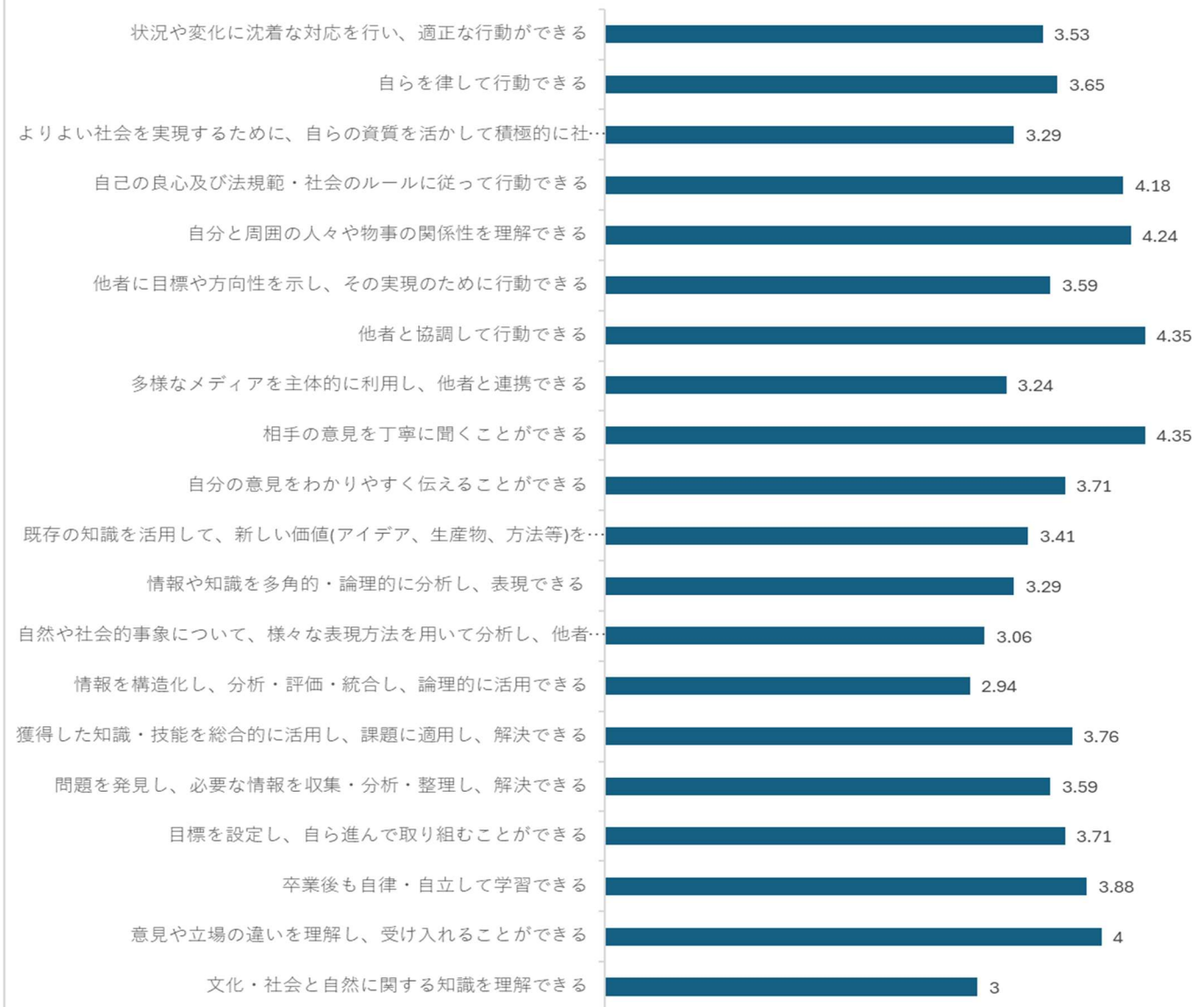
目的：社会人となった卒業生が本学在学中に身につけた学士力を、どのように認識しているかを明らかにする。

方法：汎用的学士力20項目を5段階で評定する質問フォームを作成し、同窓会のメーリングリストから卒業後2年目の同窓生を対象として回答を求めた。調査時期は令和6(2024)年2月～3月。17名(こども保育・教育専攻12名、心理専攻4名、モチベーション行動科学部1名)の回答が得られた。

結果および考察：

回答数が極めて少ないのが問題であるが、集計結果を記す。

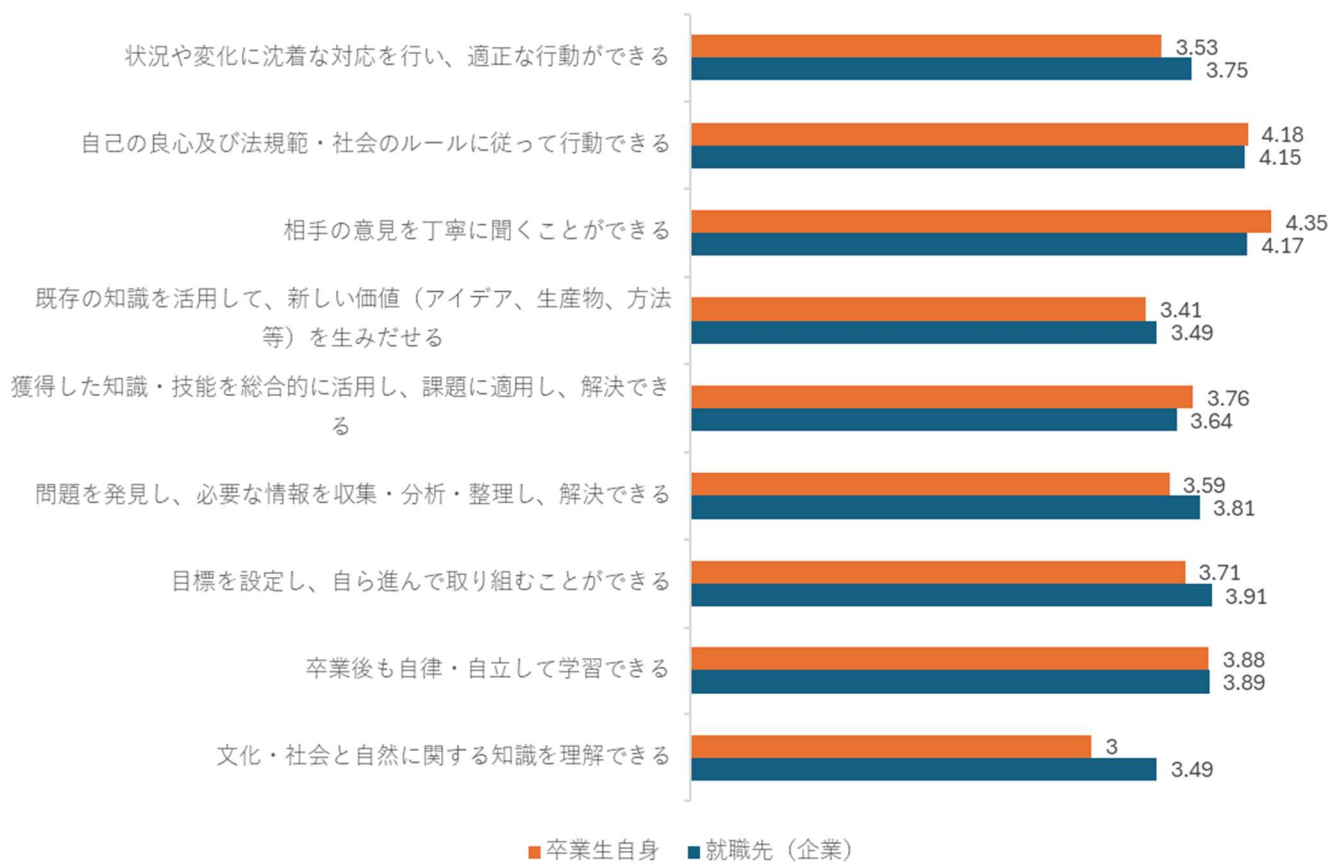
図2 卒業生の自己評定 各項目の平均値(卒業後2年、全学部学科)



1. 卒業生の自己評価が高い項目「相手の意見を丁寧に聞くことができる (4.35)」「他者と協調して行動できる (4.35)」「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解できる (4.24)」「自己の良心及び法規範・社会のルールに従って行動できる (4.18)」等であった。

低い方の項目は「情報を構造化し、分析・評価・統合し、論理的に活用できる (2.94)」「文化・社会及び自然に関する知識を理解できる (3.0)」等であった。

図3 項目別評価平均値の比較 卒業生自身と就職先（企業）



2. 今回（令和5年度）の調査では、就職先（企業）と卒業生とでは質問項目に若干の違いがあったため、すべての項目を比較することはできなかったが、汎用的スキルの同じ質問について就職先（企業）と卒業生の評価値を比較すると、ほぼ同様の傾向が見られた（図3）。また、就職先の方が卒業生よりもやや高めの評価をした項目が多かった。本学卒業生が就職先（企業）において好意的に受け止められていることがうかがわれる。